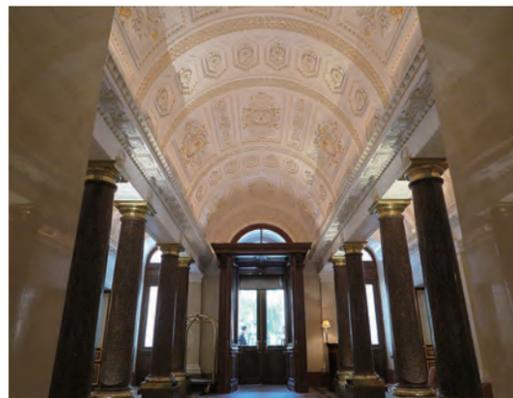




フォーシーズンズ ライオンパレスの名称は、正面エントランスに鎮座する大理石で造られた一対の獅子に由来する



エントランスホールから太い円柱の続く回廊は、天井の精緻な彫り物と相まって重厚感あふれる造りである



白亜の大理石にゴールドの紋様を付けた華麗なステアケースと、レリーフで飾られた壁面の空間は息をのむくらいのオーラを放つ



筆者 小原 康裕

ホテルジャーナリスト  
慶応義塾大学法学部法律学科卒。  
74年 Munich Re 入社。85年築地  
原健樹代表取締役。2001年投資顧  
問会社原健設立、代表取締役 CEO。  
JHRCA、日本ホテルレストランコン  
サルタント協会理事。  
[www.jhrca.com/worldhotel](http://www.jhrca.com/worldhotel)  
現在、筆者のホームページで「世界  
のリーディングホテル」を連載中。  
多くの美しい写真と興味深いコメン  
トで、世界中のホテルとそれら関連  
都市を紹介。

## フォーシーズンズ ホテル ライオンパレス サンクトペテルブルグ Four Seasons Hotel Lion Palace St. Petersburg

[www.jhrca.com/worldhotel?cat42](http://www.jhrca.com/worldhotel?cat42)

世界にはまだまだ日本人が訪れていないホテルがある。このコーナーではホテリエが知っておくべき「世界のリーディングホテル」を紹介する。これまで多くのホテル紹介本が出版されてきたが、そのほとんどが現地のホテルと事前に取材の連絡を取り合い、プロのカメラマンや通訳、そのほか大勢を連れ立っての大名取材であり、宿泊は省略といったことも多々であった。本連載では、著者自身が長年にわたる個人旅行中に自分の目で感じ取り、コメントを書き込み、自分のカメラで思いのままを撮ってきた写真を掲載する。

※本連載は毎月2・4週号掲載



「Four Seasons Hotel Lion Palace St. Petersburg」は旧海軍省の前面に位置し、「The House with Lions」として知られる壮麗な宮殿に由来し、2頭の獅子を従えた正面ファサードはまさに現代の宮殿といった趣である



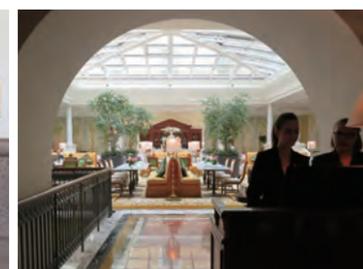
ロシアンホスピタリティを感じるレセプションデスク



1820年代帝政ロシアの華やかなりし宮殿の香りが漂う回廊



にこやかにドアマンがゲストを迎える正面エントランス



中心部に位置しトップライトから淡い陽光が入るオールデイダイニング「The Tea Lounge」



「Percorso」は「旅の道程」という意味のモダンイタリアンで、四つのゴージャスな部屋に分かれている



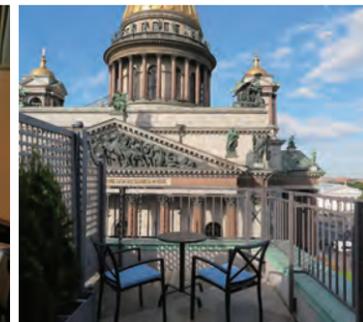
シンガポール、東京、香港の頭文字を取った「Sintoho」。すしカウンターや鉄板焼きもある



最上階に位置する「Four Seasons Terrace Room」のベッドルーム。張り出した専用テラスから聖イサーク大聖堂を真正面に望むホテルでいちばん人気の客室だ



ライティングデスクから広いテラス方向の眺望



張り出した専用テラスから聖イサーク大聖堂を真正面に望む

帝政ロシアの首都であったサンクトペテルブルクには伝統と格式を誇る、いわゆる老舗名門ホテルが数多く存在するが、2013年にある衝撃がホテル業界に走った。フォーシーズンズホテルがラグジュアリーの粋を集めた新たなプロパティを最高の立地にオープンさせたためである。ホテルの名は「Four Seasons Hotel Lion Palace St. Petersburg」(以下、FS/LP)。ロシア初のフォーシーズンズホテルの誕生であった。実は、モスクワとサンクトペテルブルグで同時に建設を開始。モスクワの方がロシア初のフォーシーズンズを目指したが工事に遅れが出て、こちらがロシア初のフォーシーズンズとなった。ちなみに、モスクワは翌年2014年にオープンしている。

ライオンパレスの名称は、正面エントランスに鎮座する大理石で造られた一対の獅子に由来する。旧海軍省の前面に位置し、「The House with Lions」として知られる壮麗な宮殿は、1817年の建設着工以来、旧ロシア帝国軍事省として使用され、戦後は政府の建築局など色鮮やかな歴史に彩られてきた。聖イサーク大聖堂の真横に建つこの歴史的建造物は、大聖堂と同じ著名なオーギュスト・モンフェランの設計により建設されている。

FS/LPは26室のスイートと157室のゲストルームを擁し、2頭の獅子を従えた正面ファサードはまさに現代の宮殿といった趣である。筆者にアサインされた部屋は最上階に位置する「Four Seasons Terrace Room」で、張り出した専用テラスから聖イサーク大聖堂を真正面に望む人気の客室だ。レストランは、シンガポール、東京、香港の頭文字を取ったアジアテイストの「Sintoho」があり、すしカウンターや鉄板焼きコーナーもある。「旅の道程」という意味のモダンイタリアン料理の「Percorso」は、4つのゴージャスな部屋に分かれている。また中心部に位置しトップライトから淡い陽光が入る「The Tea Lounge」で用意される朝食は楽しい。スパ施設「Luceo Spa」は伊フィレンツェの世界最古の薬局「Santa Maria Novella」のオイルを使用したアロマセラピーが人気である。

FS/LPの館内に一歩踏み入れると、1820年代帝政ロシアの華やかなりし宮殿の香りが飛び込んでくる。エントランスホールから太い円柱の続く回廊は、天井の精緻な彫り物と相まって重厚感あふれる造りである。圧巻はホール奥に佇むステアケースだ。白亜の大理石にゴールドの紋様を付けた華麗な階段と、レリーフで飾られた壁面の空間は息をのむくらいのオーラを放ちホテルの白眉と言える。



小原 康裕 渾身の写真集第二弾  
WORLD'S PRESTIGE HOTELS  
「世界の名門ホテル」  
絶賛発売中

世界最高ランクのホテルの  
美しい写真と解説にご期待ください。